

写真ニュース

発行:埼玉県生活協同組合連合会

Top News
7/31~8/2



福島の子も保養プロジェクトin埼玉

2013福島の子も保養プロジェクトin埼玉を秩父市で開催しました

7月31日から8月2日、埼玉県生協連と埼玉県ユニセフ協会の共催で「2013福島の子も保養プロジェクトin埼玉」を秩父市山田の埼玉県青少年総合野外活動センターで開催しました。放射線を外遊びできない子どもたちに思いやり遊んでもらおうと、福島県生協連と日本生協連の呼びかけで昨年度から行っているもので、今年も福島に住む子どもたちと父兄47人(うち児童40人)が来県。秩父市の埼玉県青少年総合野外活動センター他で夏休みの三日間を過ごしました。



のびのびした時間を過ごした野外活動

JAとの協同組合間提携 平成25年度埼玉県産米交流会「体験稲刈り」みよりの秋!体験稲刈りに組合員親子100人が参加

JA全農さいたま主催の埼玉県産米交流会「体験稲刈り」が、久喜市のJAさいたまの彩の米センターで開催され、応募した組合員29家族100人(うちコブみらい13家族44人、パルシステム埼玉14家族50人)が田んぼでの楽しい一日を過ごしました。開会式ではJA全農さいたま木口和也県本部長、埼玉県農林部生産振興課より挨拶をいただいた後、体験園場で家族で稲刈りを体験しました。稲刈り後にはクイズラリーや、お米のミニ知識も勉強しました。



家族揃っての稲刈りに秋を満喫しました

9/21

第28回埼玉県原爆死没者慰霊式 平和への願い新たに、300名が参列

被爆から68年目を迎え、さいたま市の別所沼公園で第28回埼玉県原爆死没者慰霊式が行われました。主催者を代表して、しらすぎ会田中照巳会長が「核兵器の非人道性が改めて注目され、このことを語る被爆者の存在と役割の重要性がますます高まっています。私たちは、核兵器のない世界、核の脅威のない世界の実現に向けて、力を尽くします。」と慰霊の言葉を述べた後、参加者が花と折鶴を献花台に供えました。若い世代からの平和の願いのアピール、被爆体験聞き書き行動実行委員会による朗読があり、参加者全員で「原爆を許すまじ」を斉唱し、閉会しました。



慰霊の言葉を捧げる田中照巳会長

7/28

8/31

第34回九都県市合同防災訓練(埼玉会場) 防災フェア、応急生活物資配布訓練に、5会員と県生協連あわせて24名が参加しました

埼玉県と白岡市の主催による第34回九都県市合同防災訓練(埼玉会場)が、白岡市の白岡市立南中学校・白岡市総合運動公園ほかを会場に行われました。埼玉県生協連と埼玉県との「災害時における県民生活の安定を図るための基本協定」(1996年締結)にもとづく15回目の参加となった今年、埼玉県生協連は、防災フェアおよび応急生活物資配布訓練(コブみらい)の二つの企画に、24名が参加しました。



生協の防災取り組みや災害時の活動を紹介しました



医療生協さいたまによる血圧測定のコナー



支局長会 共同通信社 前田支局長の挨拶

マスコミさいたま支局長会との懇談会 マスコミ各社支局長の皆様と和やかに懇談しました

県内の生協の活動をきちんとお伝えし、理解をいただく一助として、マスコミ各社さいたま支局長、総局長の皆様との懇談会を、さいたま支局長会8社、埼玉県生協連・会員生協から6生協(連)あわせて30人が参加して開催しました。埼玉県生協連から、「福島の子も保養プロジェクトin埼玉」、「県内市町村消費者行政調査」、会員生協から東日本大震災の復興支援活動、再生可能エネルギーへの取り組みや行政との協働による「まちづくり」の取り組み等を報告しました。

9/26



広がる県内生協の多彩な活動

コブみらい

聖学院大学で「寄付講義」を開講しました



コブみらいは地域社会づくりへの参加、社会貢献活動の一環として、聖学院大学(上尾市)の9月からの秋学期講義で、寄付講義(全15回)を開講しました。聖学院大学での講義は、食料自給率向上のための飼料米で育てるお米育ち豚の取り組みや食の安全のための取り組みなどのコブみらいの事業活動について、地域の組合員やさまざまな社会貢献活動をともに進めている他団体の皆さんにも協力いただきながら進めていきます。9月26日の第1回目講義では、生協について、コブみらいについてのガイダンスを行いました。参加した学生からは、今後予定されているコブみらいのボランティア活動や店舗での仕事体験などの課外学習への期待の声も寄せられました。

パルシステム埼玉

職員の自主学習会を開催しました



9月14日、パルシステム埼玉の亀山裕二専務理事による職員を対象に自主学習会を開催し、センター長、営業・供給長、リーダーなどが参加しました。人生の半分を生協とともに歩んできた亀山専務は、わかば生協(パルシステム埼玉の前身)入協当時のエピソードや、パルシステム埼玉の現在に至るまでの歴史と変遷を話しました。参加者からは、「次回はもっと多くの若手に聞いてほしい」、「有意義な勉強会だった」などの感想が寄せられました。

県内の生協は、竜巻・突風による被害確認など、迅速な対応をすすめました



地元自治会役員とともに被災地の住民を訪問(医療生協さいたま/越谷市内にて)



9月2日に発生した竜巻により埼玉県東部では、大きな被害がありました。県内生協では、被害状況を確認するとともに、被害に遭われた生協組合員の方々に向けて、CO・OP共済など、被害に関する連絡やお問い合わせ受付のお知らせをしました。医療生協さいたま、埼玉県労働者共済生協のほか、コブみらい、パルシステム埼玉、生活クラブ生協、埼玉県労働者生協、さいたま住宅生協でもそれぞれ、生協組合員の皆さんの被害状況確認とお知らせを行いました。

生活クラブ生協

個人向けグリーン電力証書「えねぼそ」の販売が始まります



生活クラブ風車「夢風」が発電した電気環境価値を、初めて個人向けグリーン電力証書「えねぼそ」として購入できる仕組みを作りました。私たちの風車「夢風」は昨年1年間で465万kwhの電気を発電し各センターや生活館などの使用電力の70%を賄いました。同時に環境価値も購入することでCO2削減にも貢献しました。創られた電気を売っていただく、私たち一人ひとりが自然エネルギーに対する理解とともに使い続けることが必要です。

コブネット事業連合

品質保証研修会にお取引先401社参加



研修会開催の挨拶をするコブネット事業連合 土屋敏夫専務理事

食品メーカーなどのお取引先を対象にした「品質保証研修会」を9月18日、さいたま市文化センター(さいたま市南区)で開催し、各メーカーの品質保証部門担当者や工場の製造責任者401社681人に参加いただきました。この研修会は、コブネットグループの品質保証活動の現状と改善課題を共有化すること、お取引先と共同で学び、よりいっそうの協力・協同の関係を構築すること、フードチェーン全体の品質管理レベル向上を目指すことを目的に一昨年より開催しています。

埼玉県労働者共済生協

竜巻・突風で被災された地域で損害調査活動をすすめました



9月2日の越谷市を中心とする竜巻被害および9月16日に発生した熊谷市を中心とする突風および台風18号に関連する被害により、埼玉県内では300名を超える全労済組合員の住宅が損害を受けました。全労済埼玉県本部ではこの間、火災共済・自然災害共済加入者の損害調査活動をすすめてきました。被災された方々にはお見舞いを申し上げますとともに、今後も予期せぬ災害に備えて「住まいと暮らしの防災・保潔点検運動」を展開していきます。

医療生協さいたま

竜巻被害を支援して



熊谷地域の被災地にもいち早く「健康相談」開設

9月2日、越谷市でおきた竜巻被害に対して、医療生協さいたまでは3日に対策本部を立ち上げ、被災地域の組合員の安否確認や健康相談のテントを設けるなど、地元組合員支部とともに支援活動を行いました。自治会が行った住民訪問にも協力し、看護師などが同行しました。自治会からは「医療の専門家が同行してくれて大変助かった」と感謝をいただきました。その後の熊谷市の被災地に対しても、安否確認、健康相談を行いました。